

平成29年 2月15日

平成29年

第2回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

平成29年第2回大田区教育委員会定例会会議録

平成29年2月15日（水曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

藤崎雄三	委員	委員長
横川敏男	委員	委員長職務代理者
鈴木清子	委員	
尾形威	委員	
芳賀淳	委員	
津村正純	委員	教育長

2 出席職員（10名）

教育総務部長	水井靖
教育総務課長	井上隆義
副参事（教育政策担当）	曾根暁子
副参事（教育施設担当）	布施満
学務課長	森岡剛
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	増田亮
副参事	田井俊行
学校職員担当課長	佐藤國治
教育センター所長	岩田美恵子
大田図書館長	山中秀一

3 日程

日程第1 部課長の報告事項

日程第2 議案審議

第6号議案 平成27年度おおた教育振興プラン2014の事業実績と評価について

~~~~~  
(午後2時開会)

#### ○委員長

ただいまから、平成29年第2回大田区教育委員会定例会を開催いたします。

本日は、傍聴希望者がおります。委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○委員長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

## ○委員長

傍聴の方をお願いいたします。

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法で公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力よろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に鈴木委員を指名します。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第1は、「部課長の報告事項」でございます。

## ○委員長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

## ○教育総務部長

それでは、私から、平成29年度予算（案）の概要について、ご説明を申し上げます。

大田区の平成29年度予算案は、2月10日に公表され、報道機関への発表が行われました。本日は、この予算案のうち教育委員会が所管する主なものについて説明をいたします。なお、本日説明するのは、あくまでも案でございますが、2月17日に開会される平成29年区議会第1回定例会に上程され、審議されて、3月下旬に議決されて初めて確定したものであることにご注意いただきたいと存じます。

それでは、予算（案）の概要でございますが、「資料1」をご覧ください。A3版資料の右側に「平成29年度 教育予算案の概要について」という2つの表が載っておりますが、そのうちの左側の「28年度比」という表をご覧ください。

平成29年度の区一般会計歳出予算額は、2,618億5,893万7,000円でございます。「区一般会計歳出予算」とは、国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険を除いた区の1年間の行政予算をいいます。この中に教育委員会の予算も教育費として含まれておりまして、その金額は252億9,740万8,000円、全体の9.7%を構成しております。平成28年度の教育費は、244億5,756万2,000円、全体の9.5%でしたので、金額にして8億3,984万6,000円、全体の構成比としては0.2%の増ということになります。このことをお聞きになって、多少増えたかなという印象をお持ちの方が多いと思いますが、実は大幅に増額と言えます。

右側に「28年度予算との比較（主な事業）」という表がございます。この表は、金額の大きなもののうち、28年度は必要であったが29年度には計上不要となる項目をマイナスで、28年度の予算には計上していなかったけれども、29年度に新たに計上した項目をプラスで表示してあります。

例を挙げますと、28年度は学事システムと学校運営システムを新システムに切りかえましたので、その予算が必要でしたが、29年度は計上不要となりますのでマイナスとしています。志茂田小学校外構工事は29年度も必要となりますので、プラスということで記載してございます。この中で一番大きな要因は、志茂田中学校の校舎の工事費用、35億円余が竣工により29年度予算から計上されていないということになります。28年度並みということであれば、合計額20億円程度が減額となる予定だったところ、左側の表を見ると8億円余り増額になっているということでございますので、先ほど申し上げましたように大幅に増額され、教育費の充実が図られているとご理解いただければと存じます。

それでは、予算編成方針の背景の説明をさせていただきます。

最近、「子どもの貧困」ということが、行政課題としてクローズアップされておりまして、頻繁に報道されているところでございます。厚生労働省の国民生活調査では、平成24年時点で、17歳以下の6人に一人の子どもが「相対的貧困」の状態にあると指摘しています。この「相対的貧困」とは、その社会のほとんどの人が当たり前のもの、普通のこととしている生活ができない状態にあることを指していきまして、例えば、その境遇によって、成長に必要な経験の機会が限られるとか、社会活動に参加することができない、などというような状態を言います。

「貧困」と申しますと、私たちの多くは、生存を脅かされるような貧困をイメージしてしまいがちですが、子どもの健やかな成長を考えると、自尊心を傷つけられることなく、将来への夢を持ち、その夢を実現する機会が与えられることが大切であり、この意味から、「相対的貧困の解決」ということが教育委員会にとっても重要な課題となっていると考えております。

さて、文部科学省は、「世帯所得と学力には相関関係がある」との調査結果を公表しており、教育委員会として「子どもの貧困対策」を考えるとき、まず、最初に取り組みなければならないことは、教育委員会本来の重要な使命の一つである「学力の向上」を確実に行って、将来の夢を実現する機会を確保していくことだと考えております。

そこで、平成29年度の予算編成方針として、「学力向上が子どもの未来を拓く」をテーマとして掲げ、学力低位層の学習支援を強化することで平均学力の向上を目指すことといたしました。

「資料1」の上の囲みの「基本姿勢」をご覧ください。

予算編成にあたっての基本姿勢は、1番目として、『大田区の長期基本計画である「おおた未来プラン10年（後期）」と教育基本法に基づく教育振興基本計画である「おおた教育振興プラン2014」に掲げた事業の着実な執行』ということと、2番目に、『更新期を迎えた公共施設の維持・整備や社会保障関連経費の増加による厳しい財政状況を見据え、選択と集中による費用対効果を追求した効率的な施策展開の徹底』といたしました。

そして、重点施策を「確かな学力の定着」、「学習環境の改善」、「家庭教育力向上に向けた支援」の三つとしております。

まず、「確かな学力の定着」に向けた取り組みについて説明いたします。

「資料2 大田区学習効果測定結果：学年別、教科別平均正答率と目標値（期待正答率）」をご覧ください。こちらには、平成27年度と平成28年度の結果を表示してございます。

大田区学習効果測定は、小学校第4学年から中学校第3学年を対象に、国語、社会、算数または数学、理科。そして、中学校第2学年以上については、これに英語を加えた教科について、期待正答率を設定しています。

この期待正答率とは、「基礎的学力として、これだけは正しい回答をして欲しい」という問題の得点を積み上げた点数で、年度や教科によっても異なりますが、おおむね70点前後で設定しています。教育委員会では、区の平均正答率が期待正答率を超えることを目標としています。平成28年度の学習効果測定では、国語、算数または数学、及び英語については、対象学年の全てで目標を達成しており、社会については、中学校第1学年を除く、全ての学年で目標を達成することができました。ところが、大変残念なことに、理科では小学校第4学年、第6学年を除く学年で、わずかに目標を下回る結果となっています。

「資料3 教科概要」をご覧ください。こちらは、「大田区学習効果測定」の中学校第1学年、理科の資料でございます。左下の「正答率度数分布」という棒グラフをご覧ください。正答率が40%以下の児童・生徒が少数ではありますが、一定数存在しております。これは、ここ数年同様の傾向にございます。また、この山の位置が多少異なりますが、他の科目についても同様の傾向を示しているという状況でございます。

再び「資料1」をご覧ください。

先ほど申しあげましたように、文部科学省の「世帯所得と学力には相関関係がある」との調査結果から、しっかりと学力を身につけさせるという教育本来の使命を果たすことが、貧困対策にもつながっていくという考えから、学力低位層の学力向上を図ることで、児童・生徒全体の学力向上を目指すこととし、小学校においては「着実な学力の定着」、中学校においては「学習の遅れを取り戻す取り組み」を強化することといたしました。

これまで、区立学校では、小学校第3学年以上を対象に、積み重ねが重要な教科として、小学校では算数、中学校では数学と英語について習熟度別少人数指導を実施してきました。現在、1学級あたりの児童・生徒数が上限に近い一部の学校では、習熟度別クラスの人数が25人以上になってしまう状況が出てきておりまして、これらの学校に対しては講師を増員し、学力低位層のクラスが多人数にならないように配慮して、一人一人の学力に合わせた指導を確実に行ってまいります。これが重点施策「確かな学力の定着」の『項目1』として「小・中学校の習熟度別少人数指導の講師を増員し、25人以下の少人数指導を徹底」でございます。

中学校では、これに加え、放課後に実施している補習の時間数を増やすため、講師を必要な学校に増員して、学習に遅れのある生徒の確実な学力定着を目指してまいります。これが『項目2』でございます。

次に『項目3～5』にお示ししているのは、正答率に課題のある理科に対するものでございます。理科については予想を立て、実験や観察を行って結果を整理し、考察する探究的な学習の充実が求められております。「全国学力・学習状況調査」の結果を分析したと

ころ、本区では、実験や観察の時間に知識の定着に必要な振り返りや考察が十分できていない、事前の準備が大変であるために実験や観察の指導時間が全国平均に比べて少ない傾向にある、などの課題があることがわかってまいりました。そこで、理科の実験・観察の実践的な研修を強化して、教員の指導力の向上を図るとともに、小学校においては、実験・観察を補助する理科支援員の配置時数を年7時間から年20時間に増やすこととし、中学校においては、各校を巡回して理科授業の助言・指導やティーム・ティーチングを行う指導員を配置することといたしました。

これらの取り組みにより、理科の実験・観察の質的向上を図るとともに、その機会を増やすことで、子どもたちの理科への興味を育て、学力の向上を図ってまいります。

『項目6』でございますが、平成32年度から小学校から実施される新しい学習指導要領では、小学校第3学年と第4学年に「外国語活動」が加わり、第5学年と第6学年では、「外国語」が教科になる予定でございます。教育委員会では、現在、小学校の外国語活動の時間に外国語教育指導員（ALT）を小学校第1学年から第6学年まで全学年に配置して、「国際都市おおた」にふさわしい外国語教育を目指しております。新しい学習指導要領における外国語教育の充実に備えて、来年度からは、必要な学年に対してALTの配置時数を大幅に増やして対応を図ってまいります。

次に、2番目の重点施策「学習環境の改善」について申し上げます。

現在、区内の小中学校の約8割の学校は、建築後約40年以上経過した校舎を有しており、区は「おおた未来プラン10年」及び「大田区公共施設整備計画」に基づき、計画的に改築を行っているところでございます。

昨年は、平成26年度に着工し、建設を進めてきた東六郷小学校の校舎を竣工させることができました。引き続き、体育館建設等の工事が続きますが、子どもたちは、第3学期から新しい校舎で学んでおります。

来年度は、新たに田園調布小学校、東調布中学校の改築に着手いたします。また、既に設計や工事に着手している学校も8校あり、改築校は10校となります。学童や放課後子ども教室を積極的に展開できる機能や、学校の教育機能だけに限定せず、学校と合築がふさわしい公共施設との複合化を図ること、大規模災害の際には、安全な避難所となり得ること等を考慮しながら改築を図ってまいりたいと考えております。以上が1番目の項目でございます。

次に2番目の項目でございます。校舎改築とともに環境整備の上で大きな課題となっているのが、「ICT機器の導入」です。授業におけるICT機器やデジタル・コンテンツの活用は、「わかる授業」や「児童・生徒の興味・関心・意欲を引き出す授業」を実現するツールの一つとして注目されています。

また、ICT機器の双方向の情報処理機能は、児童・生徒が自ら課題を発見し、議論を深めて課題を解決するアクティブ・ラーニングの実践に有効であると評価されています。

さらに、ICTを活用した授業の中で、児童・生徒が主体的に目的や条件に応じて、情報の処理、加工、創造及び発信を行い、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」を育てることを通して、情報モラルや情報リテラシーの向上と定着が期待されております。

教育委員会では、平成27・28年度に北糀谷小学校及び蒲田中学校を「ICT活用推進モデル校」に指定し、全普通教室に無線LAN環境、スライドレール型電子黒板、書画カメラを整備するとともに、全教員にタブレット端末を配付し、児童・生徒用タブレット40台を配備いたしまして、授業における活用方法の研究を進めてまいりました。両校の大田区学習効果測定における期待正答率を超えた子どもの割合は、北糀谷小学校では6.2ポイント、蒲田中学校では6.4ポイント、昨年より上昇した学年がございました。学力向上にICT機器が一定の効果を及ぼしたと考えております。

そこで来年度は、この成果を全ての区立小・中学校に広げるため、モデル校と同等のICT機器を区内の全小中学校に導入し、学力の向上を目指すとともに、高度情報化社会をたくましく生き抜くための情報教育を力強く推進してまいります。

最後に、重点施策の3つ目「家庭教育力の向上に向けた支援」について申し上げます。

少子化や核家族化などによりまして、家庭の教育力の低下が課題となっております。教育委員会では、家庭の教育力向上に向けた方策の検討に取り組んでおりますが、来年度は、家庭学習の充実のため、「家庭学習研究推進校」を指定して効果的な家庭学習のあり方について研究を進めてまいります。これが『項目1』でございます。

また、家庭のあり方がその一因とされる子どもをめぐる課題のうち、特に不登校については、将来のひきこもりや就労困難につながり、ひいては貧困に陥るなど、深刻な問題であるにも関わらず、家庭だけでは解決が難しいケースが多くあります。

教育委員会では、平成26年度より教育センターにスクール・ソーシャル・ワーカーを配置し、不登校を中心として、課題のある家庭への支援も含めたサポートを始めております。現在、教育センターが行っているスクール・ソーシャル・ワーカー派遣事業については、小学校は約7割の38校、中学校は約8割の23校に対象となる児童・生徒が在籍しており、支援した人数は129名にのぼります。そして、そのうちの80名について継続的な支援が必要となっております。このスクール・ソーシャル・ワーカーには、資質向上のため、専門家による助言指導の機会を設けておりますが、この回数を増やし、円滑な支援を図ってまいります。こちらが『項目2』でございます。

また、昨年10月からは、東京都不登校対策モデル事業を活用して、スクール・ソーシャル・ワーカーを1名増員するとともに、学習や悩み等の相談支援を担う「訪問等支援員」を配置して支援チームを編成しました。支援チームは、中学校7校をモデル校とし、不登校の生徒の状況を把握し、学校や適応指導教室等との連携を図りながら、福祉的支援や学習面の相談・支援を行い、解決を目指しています。

『項目3』として、平成29年度からは、支援チームの対象に小学校6校を加え、早いうちから家庭への支援に取り組むことで、不登校の深刻化を防止するとともに、適応指導教室においては、通所初期の送迎や学習指導等を行う若い世代の活動補助員を配置して通室しやすい環境づくりを行うほか、学習支援強化のためのタブレット端末を用いた自主学習支援システムを導入してまいります。

以上が、平成29年度予算案、教育関係費の主なものでございます。

今回の予算案は、学力の向上をテーマに掲げましたが、行き過ぎた競争や学習効果測定

の点数のみに固執することがあってはならないと考えております。子どもたちが自ら課題を発見し、考え、知識を身につけていく指導を丹念に行う中で、特に勉強の苦手な子どもたちが、学ぶことの楽しさを知り、将来の夢を様々な思い描ける可能性を手に入れて欲しいと考えております。

また、本日は触れませんでしたでしたが、学力向上以外の事業についても、「おおた未来プラン10年」「おおた教育振興プラン2014」の目標達成に向け、着実に歩んでまいりたいと考えております。

平成29年度も、教育委員会事務局職員が一丸となって、大田の教育の充実に取り組むことをお誓いいたしまして、説明を終わらせていただきます。

以上でございます。

### ○委員長

ありがとうございます。

では、続いて、もう一つ報告を先に受けましょう。

お願いします。

### ○指導課長

私からは、2月5日の日曜日に「味の素スタジアム」で行われました第8回中学生「東京駅伝」大会のご報告を申し上げます。資料をご覧ください。

雨の予報もあったのですが、滞りなく都内区市町村50チームが参加して実施することができました。

午前、女子の部では、1時間55分15秒でたすきをつなぎ、第6位『敢闘賞』、そして、第3回からの記録で過去最高ということで、『特別賞』も受賞しております。特にアンカーの菊地選手とその前を走った水沼選手の走りがすばらしく、順位を大幅に上げることができ、この2名には個人の『敢闘賞』が贈られております。

午後、男子の部は、2時間23分31秒でたすきをつなぎ、第11位でございました。

男女合わせて4時間18分46秒と、結果として男女総合8位ということでもございました。

大森第七中学校長の鶴貝団長、南六郷中学校長の菅原総監督、その他スタッフの指導のもと練習を重ね、努力した成果が出たと考えております。

なお、代表選手42名中29名、およそ7割が、「大田区小学生駅伝大会」に参加経験があるということを伺っております。区としての体力向上の施策が繋がっていることを実感した大会でもございました。

なお、大田区立中学校PTA連合協議会の皆様をはじめとして、多くのサポートをいただきました。当日は、大田区公式PRキャラクターのはねびよんも応援に駆けつけてくれてまして、寒空のもと、ずっと選手たちを応援していただきました。

私からの報告は以上でございます。

### ○委員長

ありがとうございます。

今、2件報告を受けましたが、ただいまの報告に、ご意見、ご質問等ありますか。



## ○芳賀委員

予算についてです。

理科支援員の配置時数を増やすために、予算を増やすということを伺いました。

先週の土曜日、赤松小学校の学校公開へ行ってまいりました。

そこでは、6年生が、「一般社団法人ディレクトフォース」から理科の指導をしてくださる方たちが来て、滑車の授業をしていました。会社を退職された平均年齢70歳ぐらいの方たちがボランティアで、出前授業や授業のサポートに入ってくくださるのですが、一クラスに9人も来て、4人ぐらいのグループに一人ずつ付いて、本当に手厚く授業をサポートしてくださり、滑車の動きのやり方なども指導していただきまして、非常にありがたいと思っておりました。成績向上につながって欲しいと思っています。

それにしても、なぜ理科ができないのでしょうか。他の科目と比べて明らかに科目差が出ているのがちょっと疑問に思っているのですが、そこを意識して、特に中学に上がったときにつなげようということで、6年生にそういう授業を配置していると思っておりますが、その辺の分析とかはされていらっしゃいますか。

## ○委員長

今の芳賀委員の質問にお答えいただく際に、全国はどうなっていて、東京はどうなっていて、大田はどうなっているのか。ざっくりとで結構ですが、理科教育は全国的にも低いのか、全国は高いのに大田だけの問題なのかということも伝わるようにお答えいただければありがたいのですが。

## ○指導課長

大田区の状況としては、やはり実験の時数が全国や都と比べて少ないということが明らかになっております。なぜ実験が少ないのかというところの理由を今、分析しているところなのですが、恐らく子どもへの指導とか、若手教員が多い中、実験の準備や片づけが追いつかない現状などがあり、恐らく子どもに実験をさせずに教員の演示や、場合によってはビデオ、VTRを見せることでそれに替える、また、教科書を見せて指導するだけになってしまうというような状況があったのではないかなと考えております。

このような状況の中で、「実験をきちんとさせる」、「考察をきちんとさせる」、「この単元でこの実験で何がつかめるのか」、そこまできちんとやり切る授業が来年度以降できるように理科支援員を含めた対応をしてまいりたいと考えております。

## ○田井副参事

平成27年度の「全国学力・学習状況調査」には、実験の頻度の設問がありまして、全国との比較を見ると、本区は実験を行っている割合は少ないことがわかっています。しかし、この調査の理科の成績の他都市との比較についてはわかりません。

また、「資料3」を見ると、大田区学習効果測定においては、大田区と同一のテストを行っている全国の自治体の平均と大田区の平均の差異は示されています。ただし、都の数値がないため、都と区の比較というのは出ていません。

このことより、一概には言えませんが、本区においてはやはり理科の課題ははっきりと出ているところです。

### ○委員長

ありがとうございます。芳賀委員の質問に付随して、これが大田区だけの問題なのか東京の問題なのか日本の問題なのか、どのレベルなのかなと思ったので伺いました。

### ○芳賀委員

理科支援員の配置について、現場の先生たちの評価はどうなのですか。理科支援員が来てよかったという話なのか、あるいは、ありがたいのだけれども、自分の授業の計画の中に、割り込みが入ってしまって、ちょっとやりにくいという意見などはありませんか。

### ○指導課長

この予算案作成の前に、全校長を対象に夏・秋2回、ヒアリングを実施しております。学力を上げるにはどうしたらいいかというのを校長一人一人に聞き取りした結果、やはり実験のサポートをしてもらう人を配置するのが、一番効果が上がるとの声が多く聞かれました。そのような現場の声を踏まえて、予算計上したものでございますので、このことによって学校の現場がうまく進まないということは基本的にはないと考えております。

### ○芳賀委員

わかりました。

### ○委員長

ありがとうございます。  
他にいかがでしょうか。  
お願いします。

### ○尾形委員

昨日、大田区民、保護者、学校教職員向けの「平成28年度おおたの教育研究発表会」が開催されました。冒頭で、津村教育長と増田指導課長から、「おおた教育振興プラン2014」の概要や取組状況の説明がありました。大変わかりやすいお話を伺い、保護者や区民の方もとても喜んでおりました。教育委員会や学校、地域が一丸となって、スクラムを組んで「おおた教育振興プラン2014」の実現に向けて取り組んでおり、そして、着実に成果が上がっているということが実感できるととてもよい発表会だったと思いました。

そして、今日、教育総務部長から、予算案やそれに伴う施策などの説明があり、大変よくわかりました。この話を聞いて、私は「おおた教育振興プラン2014」の実現に向けた積極的な予算を組んでいただいていると、より強く思いました。なぜかといいますと、この施策の中で、全ての子どもたちにとって、「楽しい学校づくりを推進したい」という強い思いを感じたからです。

では、具体的にどういうことかということ、その一つに全ての子どもに確かな学力を身に

つけさせるための施策がたくさん入っております。部長から説明がありましたように「習熟度別の少人数指導や放課後補習教室の充実」、「ICT教育の推進」、それから「理科教育の充実」と、確かな学力をきちんとつけたいとそういう施策があふれていると感じました。私も現在、小学校で週3回、ボランティアで放課後の補習教室で算数を教えていますが、教員を含めて3人で、10人の児童を見ています。そこで丁寧に教えていくと、子どもたちが「わかった」「できた」と、そんな笑顔が見られる瞬間がたくさんあります。この施策をさらに充実させていただきたいと思います。

二つは、「不登校児童をなくしたい、ゼロにしたい」という思いが入っていると思います。先ほどの予算案の説明の中で、家庭教育力向上に向けた様々な支援がありました。これによって学校、家庭、地域そして保護者を含めた「オール大田」で、不登校ゼロを目指していきたいと思っております。今日、説明があった施策を学校と教育委員会、保護者、地域で、がっちりスクラムを組んで取り組み、子どもたちにとって今日が楽しく、明日が待たれるようなそんな学校をつくっていききたいなと思っております。

以上です。

## ○委員長

ありがとうございます。

ほかにご意見、ご質問はございますか。

## ○鈴木委員

プラスしてのお話になろうかと思えます。今、尾形委員からいろいろお話がございましたが、全くそのとおりだと思っております。

私からは、生活面についてお話したいと思えます。

昨日、午後9時よりNHKで「NHKスペシャル 見えない“貧困”～未来を奪われる子どもたち～」という番組の放送がありました。たまたま見ていたところ、「見えない貧困」ということに視点を置いた「相対的貧困」についてのお話でした。大田区が実施した「大田区子どもの生活実態に関するアンケート調査」から、その結果の数値や対応なども紹介されました。

かつては「学力向上」といいますと、競争をするというイメージが強かったと思えますが、昨今は、先ほどもお話があったように「平均的な学力の向上」ということで、「学習の遅れ」や「不登校」をなくすということが中心になっていると感じます。「貧困対策」が言われていますが、番組のタイトルの「見えない貧困」というように、外見的にはほとんどわからない状態が多いのが現実です。子どもも困っていることを示さないし、親も話さないために、現実的に見えないわけです。学校では対処が難しいと思えますが、注意深く関心を持って子どもを見ていけば、例えば、新しい洋服が買えないために、お下がりやを常に着ている子がいるのがわかります。

番組ではこんなことを紹介していました。兄弟姉妹が数人いる母子家庭の中学生の男子生徒です。彼はいつもお姉ちゃんのお下がりやを着ているんです。男物と女物というのは合わせが違うのですが、白いシャツですから、意外とみんな気がつかなくて、その男子生徒は「（男女の合わせが違うことを知らないから）僕はお姉ちゃんブラウスの男物のシャ

ツとして着て通した」と言っていました。そのように意外と見えないのですが、収入の面で母親が大変だとわかっていると、子どもながらに察知していて、困らせるようなことは言わないということがあられるようです。

もう一つの例は、やはり母子家庭の女子高校生でした。母親の収入が少ないから大変だとわかっていました。そして、朝早く起きてアルバイト行って、学校に行って、帰ってきたらまたアルバイトへ行くというように、アルバイトを二つもかけ持ちして生活費の足しにしていると報じられておりました。このように日本は、外見的には非常に豊かに見えますけれども、奥深いところではそういうものが結構あるということを、やはり認識しなきゃいけないのかなと思うのです。

そこを含めて、スクール・ソーシャル・ワーカー派遣による支援の充実、先ほど129名の方を支援したというお話ございましたけれども、そこをさらにきめ細かく丁寧に続けていくことで、生活面での底上げをして、学力を上げて、学校・保護者・地域の皆さんと一緒に「楽しい学校づくり」をしていただけるとありがたいと、このように思いました。

今回の計画や予算案を見ていると、そういったところも含めて、懇切丁寧にやっただけにしているということがよくわかりました。よろしくお願ひ申し上げます。

#### ○委員長

ほかにご意見、ご質問ございますか。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○委員長

それでは、次の日程に行きます。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第2は、「議案審議」でございます。議案を読み上げます。

第6号議案「平成27年度おおた教育振興プラン2014の事業実績と評価について」でございます。ご審議よろしくお願ひいたします。

#### ○委員長

それでは、事務局からの説明をお願ひいたします。

#### ○教育総務課長

私からは、第6号議案「平成27年度おおた教育振興プラン2014の事業実績と評価について」ご説明をいたします。

大田区の教育の5か年計画として重要施策を取りまとめた「おおた教育振興プラン2014」では、プランの実効性をより高めるために、計画に位置付けた成果指標及び計画事業について、点検・評価を実施することとしております。

本案は、「おおた教育振興プラン2014」の成果指標及び各事業の平成27年度の取組状況

について、点検及び評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものでございます。

また、本案を「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に規定されております教育に属する事務に関する点検及び評価として位置付けまして、その旨取り扱うものでございます。

平成27年度の点検・評価では、86事業について評価を実施しております。評価につきましては、報告書の1ページにお示ししてございます判定基準より評価してございます。

まず、こちらの86事業のうち80事業は、計画どおりの進捗がございましたので、評価を「3 計画どおりの進捗があった」とさせていただきます。

次に、評価が2となったものが、6件ございます。

まず、「2① 計画期間を通じて段階的に取り組む事業で、進捗に遅れ・変更があったが、計画期間中には回復することができる」としたものについて、ご説明申し上げます。

報告書の32ページをご覧ください。こちらは、「教育環境向上アクションプラン」における「学校施設の改築の推進」の中で、嶺町小学校について、予定年度内に完成はしましたが、工事完了が1カ月おくれたため評価を「2①」としてございます。

続いて、34ページをご覧ください。こちら「学校施設の改築の推進」ですが、大森第四小学校は設計期間が、また、入新井第一小学校については基本構想・基本計画が予定よりもおくれたために評価を「2①」としています。

続いて、36ページをご覧ください。こちらは「教育環境向上アクションプラン」における「学校施設の緑化の推進」ですが、27年度は4校の計画に対して、3校の実績となりましたので、「2①」といたしました。

続いて、55ページをご覧ください。「地域力育成アクションプラン」における「鳳凰閣の修復及び勝海舟に関する資料などの収集・展示」でございます。こちらにつきましては、整備事業検討委員会の設置により、展示設計の基本設計が完了しましたが、入手見込みの展示資料が大幅に増加したということがございました。また、躯体調査が追加で必要になったということもございまして、施設の設計に遅れが生じたため、評価を「2①」といたしました。

次に、1ページにお戻りいただきまして、評価「2② 毎年度反復継続する事業で、当該年度は進捗に遅れ・変更があったが、次年度以降の計画への影響は生じない」としたものについて申し上げます。

こちらは38ページをご覧ください。「家庭・地域の教育力向上アクションプラン」における「家庭・地域教育力向上支援事業」でございます。本事業は、家庭や地域における子どもの教育に関わる講演会や学習会を、PTAや自主団体等に委託して実施するものです。年間50団体で講演、学習会を開催していただくことを目標としているところですが、近年、実施団体の減少が見られ、27年度は29団体が実施したというのが現状でございます。この事業は毎年実施しているもので、平成27年度につきましては、目標に対して実績が下回ってしまいました。次年度以降の計画に影響は生じないということで、評価は「2②」としてございます。

また、このたびの点検・評価に対しまして、今後の教育施策の参考にするため、「学識者」の視点から、玉川大学客員教授の宮島雄一氏、「保護者」からの視点で、元小・中学

校でPTA会長を経験されている浅見悦弘氏、それから、「生涯学習・スポーツ」の視点から、総合型スポーツクラブの理事長をされています桑田健秀氏の3名の方に、ご意見をいただいております、58ページから68ページに掲載させていただいておりますところがございます。

3名の方々からは、おおむね計画どおりに進捗したことに対し、評価をいただいているところがございますが、主な意見について、ご紹介させていただきます。

まず、宮島氏からは、「英語カフェの実施について、小学校における英語の教科化完全実施が目前に迫り、自ら英語を使いたいという児童生徒の育成に大きな成果を期待しています。平成27年大田区学習効果測定の結果によると、理科については、小中学校ともほとんどの学年で目標値より平均正答率が下回っており、サイエンススクールの成果を全区的な取り組みにしなければならないと考える。」などのご意見をいただいております。

浅見氏からは、「職場体験活動の充実について、中学校2年生の早い段階で社会に触れさせることは、とても貴重な体験につながっている。この経験をもとに、子どもたちが、自身の将来の夢を考える一つのきっかけになってくれることを望んでいる。有益な事業だと考える。」などのご意見をいただいております。

桑田氏からは、「体力向上アクションプログラムについて、新体力テストの点数が下がっていることが気になることである。小中学生の駅伝大会については、画期的な行事と評価している。1年間、練習を積むことで体力向上につながると思う。さらに、小学生時代にもっと体を使った遊びをふんだんに取り入れ、継続的に行える場の充実が必要であるとも感じる。休み時間や放課後に気楽にできる具体的なソフトを取り入れ、効果を図るべきだと考える。」などの意見をいただいております。

第6号議案 平成27年度おおた教育振興プラン2014の事業実績と評価についてのご説明は以上でございます。

なお、本報告につきまして、本日この定例会でご決定いただければ、2月27日及び28日に開催されます「こども文教委員会」にて報告し、議会報告とさせていただきます。

また、議会報告後は、ホームページに掲載し公表を行う予定です。あわせて、来月開催の校長会でも本報告書を配付し、このたびの点検・評価を教育委員会全体で共有してまいりたいと考えております。よろしくご審議、ご決定のほうをよろしくお願いいたします。

私からは、以上でございます。

## ○委員長

ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等はございますか。  
よろしいですか。

(「なし」との声あり)

## ○委員長

それでは、第6号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

## ○委員長

では、第6号議案については、原案どおり決定させていただきます。  
これもちまして、平成29年第2回教育委員会定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

(午後2時44分閉会)